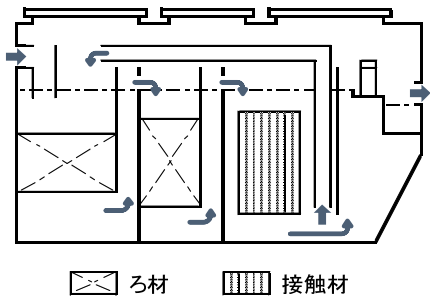


事例 2 5 過去の申し送り事項の検証による水質改善事例

1. 基本情報および概要図




処理方式	構造例示型 嫌気ろ床接触ばっ気	作業予定月	
メーカー／型式	(株)ハマネツ／KGN3型	清掃	10月
人槽／使用人員	5人槽／6人使用	保守点検	12・4・8月
日平均汚水量	1.48m ³ /日	法定検査	6月

法定検査時の設定状況(平成27年6月10日)			概要図 
	メーカーの基本設定	保守点検の設定	
空気逃がしバルブ	全閉	全閉から1/4回転開	
移送水量	0.0 L/分	0.0 L/分	
KGN3型の特徴			
構造例示型	構造や容量が同じ基準で設計されている		
1次処理 ろ材	形状は、すべて板状である		
2次処理 接触材			




2. 過去の申し送り事項の検証と結果

年度	検査種別	日付	放流水	DO	pH	1次処理	移送	空気逃がし	法定検査の判断と申し送り事項
			透視度(度)	(mg/L)		流出水透視度(度)	水量(L/分)	バルブ開度(回転)	
平成25年度	法定	6月11日	<u>9</u>	0.2	6.3	4	2.2	0	判断 2次処理機能低下(白濁) (ばっ気不足)
	保守	8月9日	<u>16</u>	0.1	6.1	5	1.0	0	申し送り事項 ブロワ増量60→100L/分 移送水量を少なくする <input checked="" type="checkbox"/>
平成26年度	法定	6月16日	<u>10</u>	0.1	6.2	4	0.8	0	判断 2次処理機能低下(白濁)
	保守	8月7日	<u>18</u>	0.3	6.3	6	0.0	1/4	申し送り事項 通常運転(ブロワ)に戻す 移送水を停止する 旋回流を弱くする <input checked="" type="checkbox"/>
平成27年度	法定	6月10日	<u>16</u>	0.7	6.6	8	0.0	1/4	判断 2次処理機能低下(白濁) 申し送り事項 逆洗の実施 2次処理底部汚泥の移送 更に旋回流を弱くする <input type="checkbox"/>
	保守	8月12日	<u>36</u>	0.9	6.8	10	0.0	1/2	
	清掃	10月27日	<u>32</u>	/	6.7	10	0.0	1/2	
	保守	12月9日	<u>33</u>	1.3	6.8	9	0.0	3/4	


3. 平成26年度の槽内写真(法定検査時;平成26年6月16日)

	1次処理1室	1次処理2室/2次処理	2次処理/沈殿槽
流入			
	スカムは白色 流入負荷が高い	2室のスカムも白色	2次処理も白濁し汚泥は少ない
放流			

4. 平成27年度の槽内写真(法定検査時)

	1次処理1室	1次処理2室/2次処理	2次処理/沈殿槽	
流入 ➡				放流 ➡
	スカムは黒色部分が増え 固液分離が向上する	2室のスカムに変化は少ない	26年度より白濁は薄くなり 汚泥が堆積している	

5. 空気逃がし調整による2次処理槽内水の変化(法定検査時)

2次処理逆洗後の槽内水(上)と 移送水(下)を比較		
平成26年度	平成27年度	
① 	③  ➡ ④ 	
白濁し汚泥は少ない	採水直後	5分後、汚泥は沈降を始める
② 	⑤ 	
常時移送している 0.8L/分	汚泥移送は常時停止。逆洗後、汚泥を沈降させて移送を行う	

6. 法定検査から保守点検への申し送り事項(平成27年度)

- 1) 逆洗を実施して下さい
- 2) 2次処理の底部汚泥を移送して下さい
- 3) 更に旋回流を弱めて下さい(空気逃がし調整1/4回転開→1/2回転開に変更する)

7. 保守点検時の留意点

- 1) 流入負荷が高い施設において、ばっ気風量を増加し水質改善またはDOが回復しない場合は、少しずつ空気逃がし調整を行い汚泥の性状やDO、pHなどの変化を観察する
- 2) 変化や結果が分かるまでは調整を変更せず経過を観察する

8. 清掃時の留意点

水質に改善傾向がある場合は、2次処理適正量引抜き(堆積汚泥)を行い上澄水に含まれる微生物を活用することで、清掃作業後の2次処理機能の立ち上がりに留意する

【1次処理】1室・2室:板状ろ材

【2次処理】板状接触材